

和歌山県白浜町でツバメが巣を2度利用

Shin KUBOTA : Swallow uses the same nest twice
in Shirahama, Wakayama Prefecture, Japan

久保田 信

和歌山県白浜町の牟婁の湯の入口には3年前からツバメが人工物に巣をつくり、毎年ヒナを夏季に育てあげている。ツバメが初めて営巣し

た年とその翌年はヒナを1回だけ育てたが、今回2回育てた。牟婁の湯の番台の方々の観察の聞き取り調査も参考にしながら今回の営巣とヒナの巣立ちについて簡潔に報告する。

2012年6月に人の出入りの多い場所（人の背が届かない高さ）に、1回目の巣作りを始めたが、こわれ易い材質のためか長らく手間取っていた。雨がよく降るようになって巣がしっかりできあがり（泥で固めることができたのだろう）、5羽のヒナをかえし、巣立たせた。数週間後に再び同じ巣を活用し、ヒナをまた5羽育てあげた（図1）。ヒナは8月中旬になってまずは3羽が巣立ち、最後に8月15日に残りの2羽が巣立った。これら2回の営巣による繁殖（計10羽のヒナの巣立ち）は成功したといえよう。



図1 和歌山県白浜町牟婁の湯の入口につくった巣の中で巣立ち前のツバメのヒナ（2012年8月8日撮影）

京都大学フィールド科学教育研究センター
瀬戸臨海実験所
（〒649-2211 西牟婁郡白浜町459）